

今回はビッグバンドの魅力についてご紹介します。恐らく、多くの読者にとっては、ビッグバンドというと、グレン・ミラー楽団やカウント・ベイシー楽団に代表されるようなSWINGジャズ時代のサウンドをイメージすると思います。

SWING時代のジャズは、主に踊るための音楽だったので、当時のビッグバンドも踊るための音楽を提供するというのが大きなミッションでした。当時流行した曲をバックにどのように踊ったのかが分かる動画があったので御覧ください。最初の曲は、グレン・ミラー楽団のヒットソング、イン・ザ・ムード(In The Mood)です。
<https://www.youtube.com/watch?v=mHANNkKBSNU&t=260s>

こういう動画を見ると、リズムがはっきりしている?踊るのに適したテンポである?サウンドがゴージャスである、といった要素が必要だったことが分かります。当然、アドリブは必要ありませんというか、踊る上ではむしろ邪魔かもしれません。

◎ビッグバンドナンバーが当時のトップチャート

そして、当時はこうした曲こそが大衆的ヒットソングだったのです。イン・ザ・ムードはビルボードのヒットチャート(当時はジュークボックスで多くかけられた曲)で12週連続トップ、同じくグレン・ミラー楽団のタキシード・ジャンクション(Tuxedo Junction)が9週連続トップでした。タキシード・ジャンクションはこういう曲です。
https://www.youtube.com/watch?v=FShSI_6LyF8

ミラー楽団の最初のヒットであり、楽団のテーマ曲にもなっていたのがムーンライト・セレナーデです。今でも、アマチュアビッグバンドでは重要なレパートリーの一つです。コードとメロディだけを取り出してピアノトリオなどで演奏してもあまり面白くありませんが、ミラーのアレンジでビッグバンドで演奏した時に魅力が全開になります。
<https://www.youtube.com/watch?v=9R3S-iPPODA>

曲の形式は8小節×4のAABA形式です。最初のメロディはサックスセクションが吹き、それに対してブラスセクション(トランペット・トロンボーン)がカウンターメロディ(オブリガード)を付けていきます。メロディそのものも美しいのですが、このカウンターメロディが良くできていて、とても気持ちが良いですね。

Aセクションの最後2小節(歌詞で言うとMoonlight Serenadeの部分)だけブラスに代わります。サビ(Bセクション)の前半もブラスがメロディを吹き、サックスはカウンターで絡みます。このように、ビッグバンドではメロディのある部分をサックス、ある部分はブラスが入れ替わって担当することで変化をつけています。

◎アーティ・ショウ楽団で聴くビッグバンドの楽しみ方

ミラー楽団より少し早く活動を始め、やはり多くのヒットを飛ばしたのが、クラリネット奏者のアーティ・ショウが率いた楽団です。このバンドも、今聴いても褪せない魅力を持っていて、ビッグバンドアレンジの解説にピッタリの画像をみつけたので御覧ください。曲は、コール・ポーターの名曲ビギン・ザ・ビギンで、ショウ楽団が1938年に録音したシングル盤が大ヒットとなりました。

この動画は、演奏の良さはもちろん、メロディを担当する奏者や楽器セクションをカメラが追っていくので、視覚的にもアンサンブルを理解しやすくなっています。素晴らしい映像です。

まず、リーダーのショウ(cl)が、一人でメロディを吹き、バックバンドは要所でカウンターメロディ的にハーモニーをつけます。次に39秒あたりからはサックスセクションがメロディを吹きますが、サックスだけでメロディ以外の音も吹いてハーモニーをつけています。そして、1分6秒あたりからはメロディ担当がブラスセクションに代わり、トランペットとトロンボーンでアンサンブルします。

その後、一瞬サックスセクションがメロディを吹き(11秒あたりから)、ブラスがカウンターを吹きます。1分20秒からはホーン全員の合奏(トゥッティ)になります。その後、1分34秒からはテナーサックスが、最初のショウのように一人でメロディを吹き、バック

クは合いの手的ハーモニーをつけます。いやー、気持ち良いです！
<https://www.youtube.com/watch?v=cCYGyg1H56s>

ミラー楽団やショウ楽団のようなサウンドの演奏を楽しむ方法をご紹介します。一つは、メロディ自体は自然に耳に入ってくるので、敢えてカウンターメロディに集中して聴くやり方です。カウンターはメインメロディとは違ったタイミングで入ってくるので聴き分けやすく、カウンターメロディの魅力が分かれると曲の聴こえ方がまた違って来ると思います。

もう一つは、一つの旋律をサクソやブラスセクションが同じタイミングで吹いている時に、やはり一番高い音であるメロディより、それよりも低く吹かれている内声と呼ばれる音にフォーカスして聴く方法です。同じタイミングで鳴っているのが最初は難しいと思いますが、段々聴き分けられるようになってくると思います。

ビギン・ザ・ビギンという曲は100小節と非常に長く、アドリブ向きではないため、コンボ（小編成インストバンド）で演奏されることはほとんど取り上げられませんが、まさにビッグバンド向きの曲ですね。フリオ・イグレシアス(vo)が大ヒットを飛ばしたことで有名ですね。ビル・チャーラップ(p)を中心とするニューヨーク・トリオの演奏も大好きです。

◎ビッグバンドの王道カウント・ベイシー楽団

この時代のもう一つの人気バンドだったカウント・ベイシー楽団の演奏も聴いてみましょう。ベイシー楽団は1936年の結成後、最も長く活躍したビッグバンドで、この音源はオールド・ベイシーと呼ばれる戦前のバンドの音源です(1941年)。
<https://www.youtube.com/watch?v=TYLbrZAKo7E>

一聴して分かる通り、同じビッグバンドサウンドでも、白人系のミラーやショウ楽団のサウンドとは違うのがおわかり頂けると思います。サクソとブラスがメロディとカウンターを交代することもあります。トウッティが多いのが特徴です。

当然、サウンドは厚く、ボリュームは大きくなります。洗練より迫力を目指しているわけですね。ややもすると一本調子になりがちな面もありますが、リーダーのベイシーのピアノが要所でカウンター的に入ることで単調なサウンドになるのを防いでいると思います。ベイシー楽団もボールルームに出演する時にはダンスを意識したサウンドにしたと思われるのですが、この演奏は踊りのためというより聴く音楽と言えます。

もう一つの違いは、アドリブを重視していることです。ミラー、ショウ楽団はテーマだけをアレンジして聴かせることが多かったのに対し、ベイシー楽団は必ず団員が何人か立ち上がってアドリブソロを取ります。リーダーのベイシー自身もピアノでアドリブを取っていますね。

ベイシー楽団のもう一つの特徴は、レパートリーの多くがブルースだということです。ブルースは12小節から成る決まったコード進行の曲の形式で、土の香りがするとも言われるブルーノートが多用されることで黒人音楽らしさも表現します。これだけブルースにこだわったバンドは他になく、ブルースの持つシンプルな魅力を表現することに自信を持っていたと言えるでしょう。以下の2曲は両方ともブルースです。

One O'Clock Jump

<https://www.youtube.com/watch?v=g3JyQnYPkZk&t=69s>

Splanky

<https://www.youtube.com/watch?v=60f1zJEf00w>

ビッグバンドは専属歌手を擁していて、バンドだけの演奏に加えて歌を全面に出す演奏もよくありました。例えば、スタン・ケントン楽団はジューン・クリスティ(vo)を売出して成功しました。当時は、ビッグバンド+ヴォーカルが「鉄板」のプログラムだったわけですね。

ベイシー楽団も、エラ・フィッツジェラルドはじめ、多くのシンガーを招きましたが、中でもジョー・ウィリアムスはベイシー楽団専属のような形で売出し人気を得ました。実に良い声の持ち主です。以下の音源ではEveryday I Have The Blues（これもブルース）から始まります。

https://www.youtube.com/watch?v=D_P4GU2AUAo&t=144s

この曲を演奏する時は、イントロを楽団だけで演奏し、ベイシーがマイクを持ってウィリアムスを呼び込み、スタージ脇から歩いてきたウィリアムスがマイクに直行して歌い始めるのが定番でした。2番の歌詞が「Nobody loves me」（誰も俺を愛しちゃくれない）から始まっていて、ウィリアムスがここを歌うと、団員が揃って気の毒そうに「Oh～」と言うのがお約束でした。この音源でも1分36秒あたりで聞けます。

カウント・ベイシーと来ればデューク・エリントンかということになるのですが、一筋縄では行かない要素があり、長くもなったので次回でご紹介することにします。最後は、ベイシー楽団の十八番のApril In Parisで締めましょう。ブルースではなく、ヴァーノン・デュークの名スタンダード、胸のすくような演奏です。

15秒付近からサクセスクションの合奏でメロディが始まります。これをソリと呼びます。ソリ(soli)はイタリア語でsolo（独奏）の複数形で、複数の楽器が違うメロディを演奏するアンサンブルのことです。特に、ビッグバンドでは、サクセスクションが編曲された幾つかの音を同時に吹くことを「サクセス・ソリ」と呼びます。ビッグバンドの代表的な魅力の一つです。

<https://www.youtube.com/watch?v=wCmcoZktZG4>